

「海の日」の由来を知っていますか？

海に囲まれた日本は、昔から文化・食べ物・産業・資源など海からたくさんの恵みを受けて発展してきました。今でも、輸出や輸入の99%以上は飛行機や車ではなく、船を使い、海を渡って運ばれています。また、日本ではおいしく新鮮な魚を食べることができます。

そこで、「海に感謝し、これからも海を大切にしていこう」という思いから「海の日」が作られました。もともとは1876年に明治天皇が船に乗って青森県から神奈川県横浜に無事到着された日を記念して、1996年に7月20日を「海の日」としましたが、「ハッピーマンデー制度」によって、2003年から7月の第三月曜日に代わりしました。



海の日とは？

昔

7/20

今

7月第三
月曜日

でも、今、世界の海では…

今、私たちの海がごみで溢れようとしています。プラスチックごみだけでも世界に合計1億5,000万トン以上の量が海に漂っており、毎年約800万トンもの量が新しく海に流れています。

海のごみにもいろいろな種類がありますが、もっとも問題なのが**プラスチックごみ**です。海のごみの半分以上の量であるプラスチックごみは、**海で分解されるまでに多くの時間が必要**であるため、海で留まる時間が長く、中には400年以上海の中を漂うものもあります。毎年、海に流れ出るプラスチックごみのうち2～6万トンが日本から発生したものだと言われています。このままでは2050年の海は、魚よりもごみの量が多くなるとの予想もあり、近い未来、みなさんが遊んでいるきれいな海が消えてしまうかもしれません。



海でゴミが
分解
するまで

紙・木のごみ
数か月
～5年

レジ袋など
20年

アルミ缶
200年

ペットボトル
のふた
400年

ペットボトル
450年

海のごみの
7割～8割

街のごみ！
側溝から
川に流れたり…
風で飛ばされて
海に流れ着いたり…

私たちにできること!!

ゴミを減らす

ゴミはゴミ箱に

リサイクルする

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION





うみ あそ かた 海での遊び方



2019年11月1日にオープンした「B&Gうみてらす北の脇」はSUPやカヌー、バナナボート、水上遊具などのマリンスポーツを体験することができ、いろんな活動に使用できる多目的ホールやウッドデッキを備えた多目的艇庫です。うみてらす北の脇の目の前に広がる「北の脇海水浴場」での様々な遊び方について、みなさんに紹介します。



カヌー

自分の力でパドルを漕いで海の上を進み、自由に探検できるアクティビティです。水面との距離が近く、水や自然との一体感を味わうことや、水中の生き物などを観察することもできます。体力に自信がなくても二人乗りなら息を合わせてスムーズに進むことができます。



SUP (スタンド・アップ・パドルボード)

その名前の通り、ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいくアクティビティです。
パドルを漕ぎながら波乗りをしたり、ボードに乗って釣りやヨガをしたり、楽しみ方は自由自在。

バナナ ボート



シュノー ケリング

